今 義典 Yoshinori KON

「かごめ」解説文

今義典はビジュアルの強度を，写真を介して探っている作家である。その試みは，外界を切り取り記録する「写像」としての写真表現を目指したものでなく，人間の深層心理の領域に潜む不確定なイメージを覚醒させようとするものである。それは例えば，幻視体験者の告白に基づいた不条理な感覚の視覚化であったり，母性のような人間の本能に属する認識不能な欲動を象徴したものであったり，恐怖の極限においてフラッシュバックされる意識下の映像であったりした。これまで彼が解き明かそうとしてきたのはそうした「闇に葬り去られた精神世界」を蘇生させることであり，それを顕し出した「現像」が作品だったといえる。

鏡を道具仕立てとした本展出品作は，人間の意識のさらに深奥に秘する精神の二重構造が主題となっている。人当て鬼の童唱に唄われる「うしろの正面」という歌詞が，長襦袢を着流す女性のイメージと掛け合い，人物を往還する視覚の遊戯に見る者を誘い込む。そして，鏡に映る見えざる女性の存在に気づく時，彼女が疑いなくもう一方の人物と同一であり，生身の分身または生霊ともいえるこの物語の主人公であることに，観者は恐怖とも歓喜ともつかない独特の感情を抱くことになるのである。意識と無意識の関係を探る作者は，現実にはあり得ないこうした光景を創り出す事によって，託宣を聞くかのようなひやりとした感覚を画面に現出させているのである。合掌造りの広間を舞台とした状況設定と臨場感のある大型の画面は，この情念のドラマをいっそう生々しいものにしている。

VOCA2001評論　　北海道立帯広美術館　寺嶋弘道

1Ｐ 「阿部マリア」Ave Maria　ライトジェットプリント　600×900mm　2011年
2Ｐ 「かごめ」Doppelgaenger　ラムダプリント　1700×2200mm　2000年
3Ｐ 「スタンド・バイ・ミー」Stand by Me　ライトジェットプリント　2000×2500mm　2009年

「阿部マリア」Ave Maria
ライトジェットプリント
600×900 mm　2011 年

「かごめ」Doppelgaenger
ラムダプリント
1700×2200 mm　2000 年

「スタンド・バイ・ミー」Stand by Me
ライトジェットプリント
2000×2500 mm　2009 年